

## 同時選挙に反対

川瀬 厚美

理由 昨年2月、羽島市議会と合同の研修会が二元代表制等々のテーマで海津庁舎で開かれた。

講師は京都大学法学部を卒業され三重県庁に入れ、議会事務局で数々の要職をこなされたT氏、現在は三重県自治体議会研究センターの代表者。

T氏に同日選挙についてお尋ねしたところ氏は、「予算執行をするのは行政、行政のほうから経費が掛かるから同日にしたいと言うのならわかる、であれば議員は大勢、市長は一人。市長に話し合いで議員の任期に合わせてもらえばいい、議員の方から言うことはない」と、「経費が安く上がるとかで市長選に合わせるなんて、あかんとは言わないけれど皆さんから負託された議員の任期は、そんなに軽いものではない、そんなに短絡的に考えるものでない、重いものだ」と。 “お解りでしょうか”

- ① 私は自覚し仕事をしてきた。大きくは南濃町地内の中学校3校を元町長、故勅使川原氏と共に1校に統合した。
- ② 養老鉄道存続が危ぶまれた平成19年に養老鉄道守る会を発足させ、同志の方々とイベントを数々企画し沿線市町と連携を語り事業を展開した。平成27年度沿線7市町による養老鉄道を支援する体制ができたことは喜ばしい。
- ③平成23年津屋川の浄化をデータをもとに桑名市の国交省木曾川下流事務所に訴え、閉めっ放しであった津屋川水門を年52回開けることにつなげた。
- ④平成26年公共交通の先進地、長野県安曇野市を視察、空気を運んでいると揶揄されていた当市のコミュニティバスの運行形態を指摘し、平成27年から予約制のデマンドバスの運行が始まる。
- ⑤平成30年ネーミングライツを展開し公共施設、橋、駅など楽しい名前を付け企業名を募集しようと提案。OCT文化センターとなる。少しでも入りを考えよう。
- ⑥令和2年高須藩松平家の代官所の模型が長野県飯田市で完成。作者にお借りしたいとお願いし、現在海津市歴史民俗資料館に展示。昨年11月飯田市と市長間で応援協定が結ばれ、12月には21名の訪問団が海津市へ。

我がまち繁栄のために時間は足りない。短くすることは考えない。

首長選と議員の選挙が同じではない市町は数多くある、プロ意識に徹して。